

11ヶ国、10,000ユーザを対象とした グローバル情報プラットフォームS-GIPSを支える 統合ID管理とは

山九では、社内の情報共有をLotus Notesで行っていたが、各端末にクライアントソフトウェアを導入しなければならないことが大きなネックとなっていた。そこで、Notesに代わるWeb対応のポータル環境を構築することを決定。アイデンティティ管理ソリューションとして、Novell Identity ManagerおよびNovell eDirectoryを導入し、効果的な統合ID管理とIT統制が可能なグローバル情報プラットフォーム「S-GIPS」を実現した。



山九株式会社

株式会社インフォセンス

技術・開発本部 IT企画部 情報インフラグループ グループ・マネージャー 石澤 剛氏	第一BSS事業部 東京ロジソリューション部 落合 一裕氏
---	------------------------------------

ユーザプロフィール

山九株式会社

http://www.sankyu.co.jp/
 本社 東京都中央区勝どき 6-5-23
 設立 大正7年(1918)10月1日
 資本金 286億19百万円
 事業所 国内支店 38 / 国内会社 44 /
 海外現地法人 39 / 駐在員事務所 4
 従業員 9,702名 [連結 27,926名]
 (2011年3月現在)
 売上高 3,029億66百万円
 [連結 3,732億9百万円] (2011年3月期)

株式会社インフォセンス

http://www.info-sense.co.jp/
 本社 福岡市博多区冷泉町 2-1
 博多祇園M-SQUARE
 東京本社 東京都中央区勝どき 6-5-23 山九ビル
 設立 平成元年 4月1日

プロフィール

1918年の会社創立から100周年を迎える山九。物流サービス(3rd Party Logistics: 3PL)や機工サービス(3rd Party Maintenance: 3PM)、工場構内サービスのナンバーワンアウトソーサーとして、グローバルに事業を展開。「人を大切に」という基本理念に基づき、社名の由来でもある「ありがとう」の精神で、システムの提案から的確なオペレーションまで、経験豊かな現場力を生かした最適なソリューションを提供している。

NotesからS-GIPSへ

山九では、Lotus Notesを活用して社内の情報共有を行っていた。しかし、Notesを使用するクライアント端末に、専用のソフトウェアを導入しなければならないことが大きなネックとなっていた。そこで、導入しているNotesのサポート期間が終了するタイミングにあわせて、情報系システムを刷新することを決定した。

山九の技術・開発本部 IT 企画部 情報インフラグループ グループ・マネージャーである石澤剛氏は、次のように語る。「業務システムも、物流システムも、Web 対応システムとして構築されており、国内外どこからでもアクセスできる仕組みになっていました。そこで情報システムも、Web 環境で利用でき、かつ海外拠点のシステムも統合できる仕組みにしたいと考えていました」

当初、このプロジェクトは、Notesに代わる社内ポータルを構築するという位置づけから、「Sankyu-Global Information Portal

Service(S-GIPS)」と呼ばれていた。

しかし、より全社的なプラットフォームを目指したいという思いから、「Sankyu-Global Information Platform Service(S-GIPS)」に名称が変更されている。

S-GIPSでは、まずメール、掲示板、ワークフローといった基本的な機能を構築し、さらに国内外で使用されているほかの業務システムも統合していく計画となっている。

石澤氏は、「フェーズ1では、Notes環境の移行が主な目的ですが、2012年以降は国内の業務システムを統合するフェーズ2に着手し、最終的にはフェーズ3として、海外システムも統合していきたい」と紹介する。

統合ID管理の必要性

「当初は、統合ID管理を導入する予定はなく、安価な製品を導入するか、独自に開発しようと考えていました。しかし、S-GIPSを開発していく過程で、山九グループの情報システム運用を担当するインフォセンスから、統合ID管理の提案があり検討を開始しました」と石澤氏。

インフォセンス 第一 BSS 事業部 東京ロジソリューション部の落合一裕氏は、「以前は Notes を使用していたので、統合 ID 管理を別途導入する必要はありませんでした。

しかし、今回の S-GIPS の導入範囲が、ポータル機能から山九グループ全体のプラットフォームという位置づけに変更になったので、それに合わせた統合 ID 管理の導入が必要と考えました」と話す。

石澤氏は、「現状では 100 種類以上の業務システムがあり、システムごとに ID やパスワード、アクセス権限を管理しなければならず、

全体像を把握できなくなっていました。そのため運用上のミスも発生しており、何らかの対応策が必要だと感じていました」と紹介する。

また、「統合 ID 管理システムとしては、将来的にさまざまなシステムに柔軟に対応できることが条件であり、システム連携のためのドライバが豊富に提供されており独自にドライバの開発も可能な Novell Identity Manager を選定しました」と石澤氏は製品選定に関して説明する。

S-GIPS では、ユーザがポータル画面からシングルサインオン(SSO)で、メール、掲示板、ワークフローなどの機能を利用できる仕組みとなっており、このときに必要なユーザ ID やパスワード、アクセス権限などの管理に統合 ID 管理システムが活用されている。

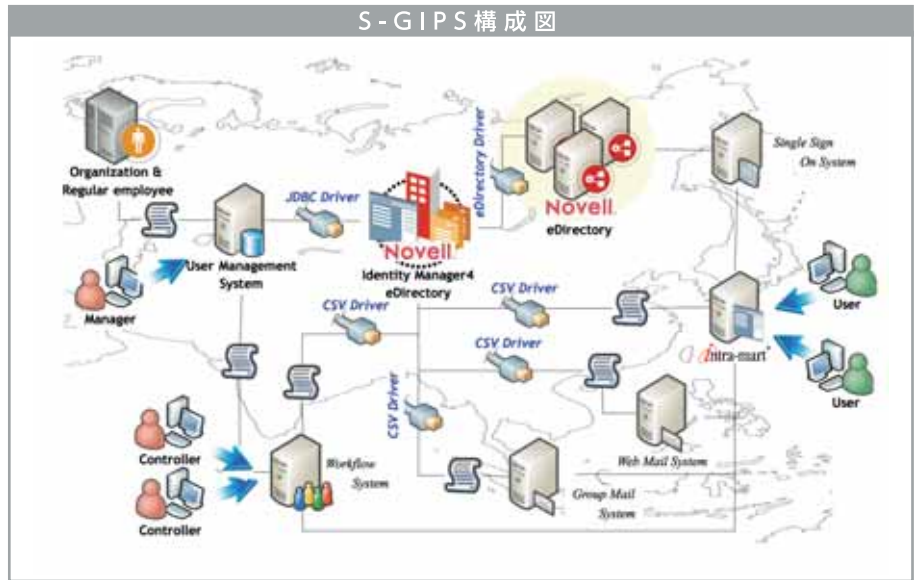
石澤氏は、「ポータル画面からは、S-GIPS の機能だけでなく、既存の業務システムなども利用できる仕様になっています。基本的には、S-GIPS の環境にログインするだけで、すべての業務を行えます。これにより、アクセス権限の管理を容易にし、アクセスログの取得も可能にしています」と説明する。

導入効果

S-GIPS では、山九の人事情報システムから全社員の源泉情報が統合 ID 管理システムに取り込まれている。また、関連会社に関しては、ワークフローの申請に基づいて、入社や異動、退職などの情報を別に用意し、Web 経由で組織マスタや役職マスタを更新して統合 ID 管理システムに取り込んでいる。

落合氏は、「すべてのユーザ情報が統合 ID 管理システムで管理されているので、入社から退職までの情報のコントロールと、発令される人事情報に基づいた権限設定が容易にできるので非常に便利です。これまでは人事情報の変更をシステム部門でコントロールしなければなりませんでした。S-GIPS によりユーザ部門に任せられるようになりました」と話す。

また、山九では、国内外にわたる組織横断型のプロジェクトが多いために、役職ではない担当者が役職レベルの権限で情報にアクセスしなければならないことがある。こうした状況に対応するために、「パブリックグループ」と呼ばれる



仕組みを独自に開発して、柔軟なアクセス権限の制御を可能にしている。

石澤氏は、「今後、海外拠点を含めて、縦割りの組織ではなかなかプロジェクトが進まないことが予想されるので、アクセス権限の柔軟なコントロールは重要でした。パブリックグループは、山九グループ全体のユーザ情報や組織情報などが統合 ID 管理システムに集約できたことで実現できた機能であり、今後のシステム開発における統制も非常にやり易くなりました」と話す。

また、「これまではシステム開発を統制する仕組みがなかったので、拠点ごとにある程度自由にシステムを開発させていました。今後は、統合 ID 管理のルールに基づいてシステムを開発できるので、システム開発を容易に統制できます。ルールがあれば、開発する側も楽になります」と落合氏は語る。

さらに以前は、退職者やグループ会社に転籍した社員のユーザ ID が、システムに残ってしまうことがあり、年に数回、ユーザ ID の棚卸し作業が必要だった。石澤氏は、「不要なユーザ ID がシステム上に残ってしまうことは、セキュリティの観点からも問題でした。しかし、統合 ID 管理システムの導入により、こうした課題は解消されました」と話す。

今後の予定をお聞かせください

今後、山九では、フェーズ 2 として、まずは

グローバルに共有しなければならない情報を洗い出し、多言語化していくことを計画している。またフェーズ 3 では、各国拠点のシステムを完全にローカライズすることで、S-GIPS に統合していくことを目指している。

石澤氏は、「今後は、バラバラに管理されている国内外の業務システムを S-GIPS に集約し、ユーザからの改修要件や開発要件にも、投資対効果の高い汎用性のあるものから対応していく計画です。こうした拡張が実現できるのも、柔軟な連携が可能な Novell Identity Manager を基盤とした統合 ID 管理システムのおかげです」と話す。

アクシオへの期待

「今回のプロジェクトでは、連携先システムと同時に開発を進めることとなったことで、想定していない仕様に直面することもあり、アクシオ担当者と共に苦労しての構築となりました。今後も S-GIPS に追加される連携システムが予定されているので、良きアドバイザーとしてお付き合いしたいと思います。

また、今回の統合 ID 管理システム構築の経験から、山九グループ以外のお客様に対してもアクシオと協業して提案していきたい」と落合氏よりお答えいただきました。

貴重なご意見ありがとうございました。

*記載されている内容は予告無しに変更される場合があります。
*掲載の社名、製品名は一般に各社の商標、登録商標です。

株式会社アクシオ
<http://www.axio.co.jp/>

- 本 社 / 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-18 東京虎ノ門ビル 5F
TEL : 03-5501-0940 FAX : 03-5501-0954
- 関 西 支 店 / 〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜 1-4-16 アクア堂島西館 6F
TEL : 06-6341-0940 FAX : 06-6341-0965
- 九 州 支 店 / 〒810-0004 福岡県福岡市中央区渡辺通 3-6-11 福岡フコク生命ビル 9F
TEL:092-736-0940 FAX:092-736-0941
- データセンター / 神奈川県川崎市、相模原市